

グルジア政治・経済 主な出来事

【2014年12月29日～2015年1月4日】

[当地報道をもとに作成]

平成27年1月12日

在グルジア大使館

主な動き

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼ロシア・「アブハジア共和国」間の関税の廃止(31日)

・アブハジア側の報道によれば、11月にロシアとの間で結ばれた「同盟と戦略的パートナーシップに関する条約」に基づき、2015年1月1日よりロシア・「アブハジア共和国」間の関税が廃止される。

2. 外 政

▼バクー＝トビリシ＝カルス鉄道(30日)

・アゼルバイジャン運輸省によれば、バクー＝トビリシ＝カルス鉄道の一部であるグルジア国内のアハルカラキ＝カルツァヒ（グルジア・トルコ国境付近）間の試運転が無事に終了した。

・22日、エルヴァン・トルコ運輸・海事・通信大臣は、2015年末までには全線が開通するとの見通しを述べた。

▼国防相がアフガニスタンを訪問(31日)

・ジャネリゼ国防相がアフガニスタンのバグラム空軍基地に駐留するグルジア軍第51軽歩兵大隊を訪問。

3. 内 政

▼検事総長の発言(29日)

・クヴィリス・パリトラ紙のインタビューで、バダシヴィリ検事総長は、サーカンヴィリ前大統領に対するレッドノーティスを発するようインターポールに働きかけていくと発言。インターポールは、レッドノーティスによって、被疑者を発見した際に手配元の国に引き渡すよう協力を各国に要請する。「バ」検事総長は「サ」前大統領の起訴に関して政治的な動機を否定した。

・「サ」前大統領については、2007年11月の反政府デモを強制的に解散させた際に権力を濫用したとして裁判所が本人不在のまま審理前勾留を命令している。そのほか、2005年に野党議員への襲撃を命令、2009年～2013年に公金883万ラリを流用、2006年のサンドロ・ギルグヴリア

ニ氏殺人事件に関して公正な裁判を妨害したとして、起訴を受けている。

▼マルグヴェラシヴィリ大統領の挨拶(1月1日)

・「マ」大統領がTVを通じて国民に対する新年の挨拶を行なった。2014年はグルジアにとって意義深い年であったとして、2015年も自由な社会を建設する道を進み続けると述べた。

▼ガリバシヴィリ首相の挨拶(1月1日)

・「ガ」首相がTVを通じて国民に対する新年の挨拶を行なった。欧州との統合に向け歩みを進めた2014年はグルジアにとって歴史的な年であったとして、グルジアを「強い欧州国家」にするためには社会の結束が必要であると強調。2015年に政府が優先的に取り組む課題として経済成長、製造業・農業の発展、医療保険および教育の改善を挙げた。

4. 経 済

▼露ロスネフチ社がペトロカス・エネルギーの株を取得(29日)

・露の国有石油会社ロスネフチが、ペトロカス・エネルギーの49%の株式を取得し、南コーカサス地域での石油の輸出・貯蔵・販売・輸送を手掛ける共同事業を開始することで合意したと発表。

・「ペ」社はポティ港に石油ターミナルを所有し、グルジア国内最大の販売チェーンの一つ「ガルフ」を運営している。

▼2014年11月のGDP成長率(30日)

・国家統計局が速報値発表。2014年11月の実質GDPの成長率は前年同月比-0.5%。2014年1月～11月の実質GDP成長率は前年同期比5.0%。

5. その他

▼イタリア沖での船の火災(28日)

・ギリシャのパトラスからイタリア、アンコナに向かっていたフェリーで火災が発生し、乗船していたグルジア正教会の司祭が死亡。グルジア人7名が救助された。